

石西

自然再生

礁湖

石西礁湖自然再生 ニュースレター 2006.09

2

豊かな海と生きていく

第2回 石西礁湖自然再生協議会が開催されました

自然再生推進法に基づく「石西礁湖自然再生協議会」が平成18年2月に設置され、石西礁湖の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻すための取り組みが開始されています。今回のニュースレターでは、第2回目の協議会の様子をご紹介します。



石西礁湖(せきせいしょうこ)の自然再生を目指す「石西礁湖自然再生協議会」の第2回協議会が平成18年8月4日に石垣市で開催されました。今回の協議会では、3個人・4団体が新たに協議会のメンバーに加わり、計95の個人・団体となりました。

今回の協議会では、自然再生の対象となる区域や目標、協議会参加者の役割分担など、自然再生の全体的な方向性を定める「自然再生全体構想」を作成するため、土屋誠会長(琉球大学教授)の進行のもと、「自然再生全体構想」の構成や記述方針案について議論を行いました。

また、今回の協議会では、「保安全管理の強化」や「持続可能な利用」など5つのテーマを設定し、テーマ毎にグループディスカッションを行い、今後、石西礁湖自然再生において展開すべき取り組みや役割分担について議論を行いました。

NEW
FACE

石西礁湖自然再生協議会 ～新たな顔ぶれ～



八重山支庁八重山福祉保健所

私たちの業務は県赤土条例に基づく規制の強化や、各種調査結果等をホームページに掲載しています。廃油ボール漂着量の推定方法を考えて研究発表会等で発表しています。



宍戸 藤重氏

高校の教員や海外日本人学校で小中学生を教え、10年間海外生活をしました。この会員になることを喜んでます。よろしく願います。



安村 茂樹氏

3年ほど前に、石垣島の白保の方にあるサンゴ礁の研究センターに駐在していました。現在、有害化学物質の担当をしており、化学物質による汚染について、議論したいと思っています。



沖縄県衛生環境研究所

当研究所は従来から、赤土、サンゴ礁関連の研究をしていました。研究所としてできることがあれば、お手伝いさせていただきます。



竹川 大介氏

八重山の海は、1989年ごろ新川の漁港の追い込みなどを調査していました。現在も太平洋のさまざまな地域の文化、特に海、漁労文化の研究をしています。



(株)はいむるぶし

小浜島にオープンし、28年目のリゾートです。マリンジャーを通して、サンゴ礁など保全活動に取り組んできたつもりです。オニヒトデの駆除などできることがあると思います。



竹富町自然環境課

石西礁湖の豊かな自然環境を子々孫々に受け継いでいくため、しっかりと議論していきたいと思えます。

「石西礁湖自然再生において展開すべき取り組みと役割分担」

第2回協議会でのグループディスカッション

第2回石西礁湖自然再生協議会では、5つのテーマに分かれて、「石西礁湖自然再生において展開すべき取り組み」と「石西礁湖自然再生協議会委員の役割分担」についてグループディスカッションが行われました。

議論は白熱し、休憩時間になっても休むことなく議論が続くなど、委員の皆さんの石西礁湖に対する熱い思いが伝わってきました。ここでは、グループディスカッションで出されたいくつかの意見を紹介します。



テーマ	展開すべき取り組みの例	主な意見
保全管理の強化	<ul style="list-style-type: none"> 海洋保護区の設置・管理の拡充 オニヒトデ対策 赤土汚染対策 水質改善 漂着ゴミ対策や不法投棄対策の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 海洋保護区の設置・管理の拡充については、設定後の取り組みが不十分だと効果が上がらないのではないかと懸念。 海洋保護区の設置のためには調査研究が必要ではないかと懸念。 オニヒトデ対策については、環境省と沖縄県が連携して実施するとともに情報公開が必要。
持続可能な利用	<ul style="list-style-type: none"> 水産資源管理 持続可能な観光と生活航路の利用 環境保全型ツーリズムの推進 サンゴ礁と共生する港湾整備の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な利用を図っていくためにはルールづくりが重要。 持続可能な利用は普及啓発と密接不可分である。 水産資源の目標設定を議論する必要があり、そのためにはデータ収集や調査が必要。
サンゴ礁の修復とサンゴ礁域の生態系再生	<ul style="list-style-type: none"> サンゴ群集の修復（有性生殖移植法による修復の実証等） マングローブ林及び藻場、干潟の保全・修復 海岸線の再生 	<ul style="list-style-type: none"> サンゴ群集の修復については、様々な知見が蓄積されつつあるので、整理すべき。 マングローブ、藻場、干潟、海岸線の保全・再生という視点に加えて、陸と海の連続性の回復・保全といった視点が必要。
普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 普及啓発の戦略的実施（各種メディアの活用等） 世界自然遺産としての価値整理とその普及啓発 身近な行動に関する具体的提示 餌付けやゴミのポイ捨て等の環境汚染対策 情報の発信とネットワーク作り 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信とネットワーク作りは、環境省のウェブサイト、ガイドブック、ワークショップ等に加えて、沖縄県や石垣市が作成しているパンフレット等も活用していく。
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング調査の実施・協力 各種調査研究の実施・協力 情報の収集・整理・発信 	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究については、他のテーマの取り組み状況も踏まえ、検討していく必要がある。 自然再生協議会委員、ワーキンググループ、研究者等でネットワークを構築し、情報発信することで、お互いの組織が連携を図れる形を目指したほうが良い。

石西礁湖は いま

シリーズ②

オニヒトデ

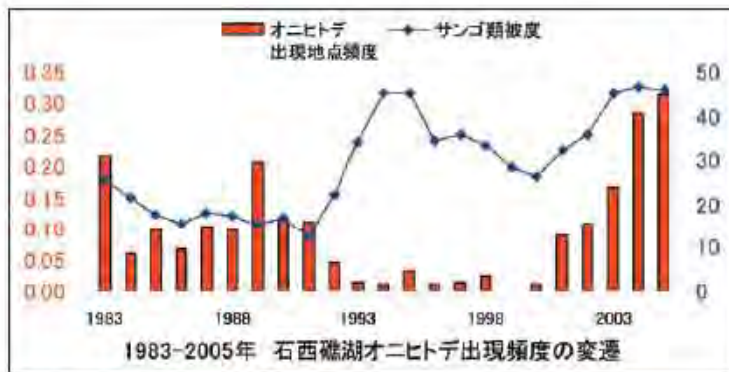
みなさんは「オニヒトデ」という生き物をご存知でしょうか？

オニヒトデはナマコやウニと同じ棘皮(きょくひ)動物という動物の仲間です。インド洋・太平洋、紅海に広く分布しています。

オニヒトデは、下の写真にあるように15本程度の腕をもち、大きなものでは80cmに達する大型のヒトデです。サンゴを好んで食べるため、大量に発生するとサンゴが食い荒らされて死んでしまいます。サンゴを食べる生物の中ではサンゴに与える影響がもっとも大きい種です。石西礁湖では、西表国立公園に指定された1972年頃からオニヒトデの大発生が始まったと考えられています。その後、1980年代に入ると爆発的に個体数が増加し、食害は石西礁湖全体に及びました。1980年代半ばには、一部の海域を除き、八重山海域全域のサンゴ群集が壊滅的な被害を受け、サンゴの減少にともなって、1980年代にはこの海域での大発生が終息しました。その後、サンゴは徐々に回復が進んでいましたが、近年になって、また、オニヒトデが増え始めています。

現在、八重山地区では、漁業者、ダイビング事業者、専門家、行政機関からなる「八重山地区オニヒトデ対策連絡会議」を設置し、オニヒトデの分布調査、駆除などを行っています。

駆除にあたっては、分布調査の結果や被害状況等に基づき、駆除を行う海域を地域の話し合いで決定し、重点的に駆除を行っています。重点的に駆除を行っている海域では、個体数の爆発的な増加はなく、サンゴの被度も著しい低下は見られていません。しかし、オニヒトデの目撃頻度は上がっており、今後も関係者が協力しながら、調査と駆除を続けていくことが必要です。



注) 被度(%)は100個体あたりのサンゴに覆われている個体の割合
出現地点頻度(%)は調査地点のうち、オニヒトデが1区でも確認された場所の割合(1が100%を表す)



オニヒトデ

Gallery

石西礁湖ギャラリー

忘れられない海



黒島キヤングチ海中公園

1975年ごろの黒島キヤングチ海中公園地区の写真です。丈の高いミドリイシというサンゴが一面を覆っています。ミドリイシは白化やオニヒトデ、台風などに弱いので、今ではこのような光景はあまり見られなくなりました。



オニヒトデの大発生

これは1981年頃に撮影されたオニヒトデ駆除の様子です。船上と岸壁には、駆除された数多いオニヒトデが盛られており、當時の大発生の状況を知ることができます。



「海の自然教室」が開催されました。

環境省石垣自然保護官事務所では、市民の皆さんに身近な海の自然とのふれあいを体験し、自然を大切にすることを養って頂くため、毎年海の自然教室を開催しています。今年は、7月29日(土)、30日(日)の二日間で開催しました。両日も小学生から大人まで、十数名の皆さんにご参加いただき、シュノーケルをつけて実際に真栄里海岸の浅いサンゴ礁の海でサンゴや魚などの生き物を観察しました。

自然教室の日は、私たちスタッフは朝早く集合します。その日の朝の海の状態を下見しておき、波が高くはないか、流れが強すぎないか、危険な生物がいないか、などをチェックします。

そして、参加者の皆さんが集合すると、3～4人のグループに分かれ、サンゴ礁の生き物のお話、シュノーケルやフィンなどを使って安全に泳ぐ方法、注意しなければならない危険生物のお話などを午前中に行います。

お弁当を食べたら、ウエットスーツに着替え、いよいよ海に出発です！最初は膝ぐらいの深さの場所で、ゆっくりとシュノーケルやフィンの使い方を練習して海に慣れていきます。1グループに2人のスタッフがついて丁寧に指導するため、初めての方でも安心です。慣れてきたら、少しずつ沖のほうに移動していきます。すると、きれいなソフトコーラルやサンゴ、カラフルな熱帯魚などいろいろな生き物が見られます。海に詳しい西表国立公園パークボランティアの皆さん(中にはプロの海洋生物研究者の方もいます)から、いろんな生き物のびっくりするお話が聞けますよ。こうして、約1時間半の観察時間は、あっという間に終わってしまいます。

どうですか？ 楽しそうでしょう？ 皆さんも是非、来年の「海の自然教室」でお会いしましょう！



浅瀬でのシュノーケルの練習



観察会で見られたサンゴや魚

講演会

「サンゴと化学物質～見えない環境汚染を考える～」のおしらせ

9月20日(水)午前9時半より、環境省国際サンゴ礁研究・モニタリングセンターでWWFジャパン主催の講演会「サンゴと化学物質-見えない環境汚染を考える-」が開催されます。まだ実態が明らかになっていない除草剤や船底塗料などの化学物質によるサンゴへの影響について、専門家のお話が聞ける機会ですので、奮ってご参加ください。

申込・お問い合わせはWWFジャパンの安村さん宛にメール(yasumura@wwf.or.jp)か
Fax(03-3769-1717)でお願いします。

編集
発行

石西礁湖自然再生協議会運営事務局



環境省 那覇自然環境事務所



内閣府 沖縄総合事務局開発建設部港湾計画課

【住所】〒907-0011 沖縄県石垣市八島町2-27 環境省石垣自然保護官事務所内

【電話】0980-82-4768 【FAX】0980-82-0279

【E-mail】okironc@coremoc.go.jp 【自然再生ホームページ】<http://shizensaisei.com/>